

1. 実況上の着目点

- ① 太平洋高気圧が日本のはるか東にあって、ゆっくり西に移動。高気圧後面の下層暖湿気が日本付近に流入しており、全国的に激しい雨を解析している所がある。雷も検知。一方、日本海側では晴れて気温が上昇し、猛暑日となっている所がある。
- ② 沿海州付近には500hPa 5760m以下の-9℃以下の寒気を伴う寒冷渦があって、ゆっくり北上。次第に不明瞭になりつつある。対応する低気圧が沿海州付近をゆっくり北北西進。
- ③ ①の高気圧の縁辺で気圧の傾きが大きくなっており、西～北日本ではやや強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧はゆっくり西に移動し、本州付近への張り出しを強める。高気圧に覆われ、西～北日本では日本海側を中心に晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。なお、下層暖湿気と気温の上昇、上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った強い雨や局地的には激しい雨の降る所がある。全国的に18日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本では17日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。北日本では16日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。
- ② 2項①の高気圧の本州付近への張り出しが強まるため、下層暖湿気の流入は次第に西日本にシフトする。また、16日夜までに前線が華中～日本海に顕在化。500hPa5760m付近のトラフに対応し、前線の低気圧が黄海から日本海に進む。前線や低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本と北日本では17～18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなるおそれがあることに留意。
- ③ 2項①の高気圧の縁辺で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。南西諸島では17～18日は、西～北日本では18日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：東海250、近畿・四国200、関東甲信180、九州北部100mm。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・東北4m、その他広い範囲で3m。
- ③ 高潮(明日まで)：西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。